

環境省－PICES 東日本大震災起因海洋漂着物影響評価プロジェクト
(ADRIFT Project) 日本国内成果発表会 (仮題)

国際シンポジウム

「東日本大震災により流出し、東北沿岸から北太平洋を横断して
アメリカ・カナダに辿り着いた海洋漂流物について」(仮題)

2011年、東日本大震災発生時に津波により大量の漂流物が太平洋に流出し、一部が北太平洋を横断してハワイやアメリカ、カナダの西海岸まで辿り着いた。それらの漂着物には多様な海洋生物が生息・付着しており、生きたまま日本沿岸からハワイ・北米西海岸に流れ着いた。漂着物と共に流れ着いた生物はハワイ・北米西海岸の生態系にとっては外来の移入種であり、何らかの影響を与える可能性をもたらした。

環境省は以上の事態を踏まえて、日本、カナダ、アメリカの海洋・水産研究機関が参画する国際機関の北太平洋海洋科学機構(PICES)を通じて、調査プロジェクトを2014～2016年度まで行ってきた。本国際調査プロジェクトには日本、カナダ、アメリカの多くの研究者が参加し、海洋漂流物のモデル・シミュレーションや観測、漂着物に付着した無脊椎動物や海藻の分類・生態、遺伝子について解析を行い、外来移入種の「運び屋」としての震災起因の海洋漂着物のリスクアセスメントを行ってきた。

以上でもたらされた科学的知見について、海洋漂流物の起源である日本国内において、関係者や研究者のみならず広く一般の方が内外の研究者自身から直接聴講する機会を設けることを目的とするものである。

主催：環境省、北太平洋海洋科学機構(PICES)

共催(予定)：日本付着生物学会、日本ベントス学会、日本藻類学会、日本海洋学会

日時・場所：2017年5月18日(木) 午後13:30－17:40

東京海洋大学品川学舎「楽水会館」

プログラム(案)

1. 開会のごあいさつ 環境省海洋環境室
2. 背景説明 牧秀明 国立環境研
3. 海洋漂着物のモデルとシミュレーション 蒲地政文 JAMSTEC
4. 北米西海岸とハワイにおける漂着状況とモニタリング
Nancy Wallace アメリカ海洋大気庁(NOAA), Cathryn Clarke Murray PICES
5. 北米西海岸設置ウェブカメラによる漂着物挙動解析 磯辺篤彦 九州大・応力研
6. 漂着物付着生物の多様性－無脊椎動物－ James T. Carlton 米国ウィリアムズ大学

7. 漂着物付着生物の多様性－海藻－ 川井浩史 神戸大・内海域環境教育研究セ
8. 種としての漂着物付着生物のリスクアセスメント
Thomas Therriault カナダ水産海洋省 (DFO)
9. 付着生物の運び屋としての海洋漂着物リスクアセスメント Cathryn Clarke Murray PICES
10. 終わりのごあいさつ 環境省海洋環境室

市民向け国際講座「津波で流されたものはどこに行ったか？」(仮題)

日時・場所：5月20日(土) 午前9：30－12：30

〈ハーネル仙台〉 <http://www.heanel.jp/access>

プログラム (案)

1. 開会のごあいさつと背景説明
2. 東日本大震災の後に北米とハワイで何が起こったか？
Nancy Wallace アメリカ海洋大気庁 (NOAA)
3. 津波で流されたものは太平洋上をどうさまよったか？ 蒲地政文 JAMSTEC
4. 漂着物に何が付いていたか？
James T. Carlton 米国ウィリアムズ大学
川井浩史 神戸大・内海域環境教育研究セ
5. 漂着物に付いていた生き物は危い？
Thomas Therriault カナダ水産海洋省 (DFO)
Cathryn Clarke Murray PICES
6. 質問
7. 閉会のごあいさつ

お問い合わせ先

国立研究開発法人国立環境研究所
地域環境研究センター 海洋環境研究室
牧 秀明
電話 029-850-2394, fax 029-850-2569
e-mail hidemaki@nies.go.jp